
東北大学陸上競技部

OB・OG通信

2016年No. 4 (2016. 8)

・ 第67回全国七大学対校陸上競技大会

兼第27回全国七大学対校女子陸上競技大会(大井ふ頭中央海浜公園陸上競技場)

…男子総合5位、女子総合2位

…女子4×100mR 渡邊(4)-佐貫(1)-吉村(3)-佐々木(2)が49” 06の大会記録・部記録を樹立し、優勝！

…男子4×100mR 大衛(3)-藤井(3)-阿部(4)-宮崎(4)が41” 44の部記録を樹立！

…宮崎(4)が男子100mで10” 50、男子200mで20” 91の大会記録を樹立し、二冠を達成！

…佐貫(1)が女子100m、400mで二冠を達成！

…楠(2)が男子砲丸投、円盤投で二冠を達成！

・ 第67回東北地区大学総体陸上

…宮崎(4)が男子100mで10” 46の部記録を樹立！

・ 第67回全国七大学対抗陸上競技大会

兼第27回全国七大学対抗女子陸上競技大会

2～13ページ

・ 東北総体、宮城県陸上競技選手権大会ほか

14～15ページ

・ 自己記録更新者一覧

16ページ

・ 今後の予定

16ページ

・ 編集後記

16ページ

残暑厳しき折、会員の皆様にはますますご発展のほどお喜び申し上げます。

今号では、7月30~31日に行われました第67回全国七大学陸上競技大会兼第27回全国七大学女子陸上競技大会の結果をお伝え致します。

◎第67回全国七大学陸上競技大会兼第27回全国七大学女子陸上競技大会(7/30~31)

・大井ふ頭中央海浜公園陸上競技場(東京)・

二日間、厳しい暑さのなか七大戦が行われました。男子は昨年より順位を1つ落として5位、女子は1位と0.5点差で惜しくも2位という結果になりました。総合優勝という部の目標は達成できませんでした。しかし、男女の4×100mRで部記録が樹立され、男子100m・200mで宮崎(4)、女子100m・400mで佐貫(1)、男子砲丸投・円盤投で楠(2)がそれぞれ二冠を達成するなど、東北大選手の活躍が目立ちました。主将・女子主将の挨拶と対校戦各選手の様子を紹介致します。

・男子総合結果

順位	大学	得点
1位	東京大学	91.5点
2位	大阪大学	85.5点
3位	名古屋大学	62点
4位	京都大学	61点
5位	東北大学	52点 (T:22点(5) F:30点(3))
6位	北海道大学	30点
7位	九州大学	27点

・女子総合結果

順位	大学	得点
1位	大阪大学	19点
2位	東北大学	18.5点 (T:15点(1) F:3.5点(5))
3位	名古屋大学	11点
4位	京都大学	11点
5位	北海道大学	9.5点
6位	東京大学	8点
7位	九州大学	3点

●主将、女子主将より

～主将挨拶～

男女総合優勝を目指した今大会でしたが、男子5位女子2位という結果に終わりました。男子に関しては、昨年よりも順位を落としてしまい、主将として責任を感じています。

この1年間、他人への関心などといったチームの姿勢を意識してきました。その点で悔いはありません。今大会は、完全に力負けという印象を受けました。昨年より東北大学の力は上がっていましたが、それ以上に他大学のレベルが上がっていました。来年以降、このレベルの上昇した七大戦で、後輩がリベンジしてくれることを望んでいます。

悔しい結果の七大戦でしたが、男女の両400mRで部記録を更新できたことはうれしく思います。



ミーティングに臨む主将の高橋

最後に、今大会も OB・OG の皆様に多大なる応援、御支援をいただきました。本当にありがとうございました。優勝という結果で応えることが出来ず、大変申し訳ありません。

これからも部員一同、一生懸命活動して参りますので、今後もよろしくお願い致します。

東北大学陸上競技部 前主将 高橋拓実

～女子主将挨拶～

前女子主将の渡邊朝美です。今年の七大戦の女子総合結果は2位でした。この一年間ずっと優勝することを目指してきただけに、大変悔しい結果であります。3年前は同点2位、そして今年が0.5点差の2位。優勝はもう目の前に見えているのに、とてつもなく遠いものでした。

しかし、各種目で好記録が続出し、競技内容を見ればよく戦えたと思っております。短距離系の大躍進や、四継の大会新での優勝、また800mやフィールド種目においてレベルの高い中で得点争いにしっかり絡むことができました。いいパフォーマンスが多かっただけに、総合で戦いに勝つというのが、やはり七大戦で一番おもしろくて、難しい部分であるということを改めて痛感する大会となりました。

私自身の失点もあり、情けなさや悔しさが先行してしまいましたが、このチームは優勝を目指せる強いチームでした。幸運なことに今回の対校戦主力メンバーは3年生以下が多数占めております。個々人はもちろん、チームとしてもまだまだ力を伸ばすことができるでしょう。新女子主将の吉村を中心とした新チームには、更なる活躍が期待できます。代々継がれてきた優勝への思いをぜひ果たしてほしいと思います。

最後になりましたが、大会期間中はもちろん、入部してから監督をはじめ、たくさんのOB・OGの皆さんに支えてきていただきました。未熟な点ばかりで頼りない女子主将であったと思いますが、皆さんのアドバイスやご支援のおかげでどうにかやってくることができました。結果でお返しすることはできませんでしたが、感謝の気持ちでいっぱいです。私たちとともに戦ってください、本当にありがとうございました。これからの女子チームにも、変わらぬご支援よろしくお願い致します。

東北大学陸上競技部 前女子主将 渡邊朝美



女子主将・渡邊(左)と次期女子主将・吉村(右)

●七大戦各競技を振り返って

☆トラック

男子 100m 予選

1-4 1着 宮崎 幸辰(4) 10"52(+0.9)Q NGR

スタートから先頭に立ち、残り約70mから相手の様子を見ながら流して一位通過。

2-2 2着 藤井 佳祐(3) 10"88(+2.7)Q

スタートが苦手であったが、予選では上手く行き、周りに離されずにスタート出来た。得意の後半で伸ばしたが最後は少しだれてしまったが、2着で決勝進出した。

3-2 1着 大衡 竜太(3) 11"35(+0.5)

非常に良い飛び出しを見せた。序盤は上位に喰らいつくも、中盤以降他の選手にじわじわと差をつけられ6着に終わった。課題がはっきりとしたレースであった。

男子 100m 決勝

1位 宮崎 幸辰(4) 10"50(-0.9) NGR



スタートは少し出遅れたが、顔を上げた後の加速ですぐに首位に立ち、残り10mで流して余裕の勝利となった。

男子短距離二冠
の宮崎(4)

8位 藤井 佳祐(3) 11"22(-0.9)

初めての決勝で緊張していた。スタートは失敗し遅れた。そこから差が開き得意の後半でも伸ばすことが出来ず8位。

女子 100m 予選

1-3 1着 佐貫 有紗(1) 12"78(+0.6)Q

スタートで少し出遅れるが中盤でトップになる。後半はそのままのスピードで後続を引き離し1着でゴール。

2-8 1着 佐々木 千肅(2) 12"78(+1.2)Q

スタートは、周りよりも少し早く起き上がってしまったが、中盤うまく加速に乗る

ことができた。接戦となったが、ギリギリ1位でゴールし、決勝に進出した。

女子 100m 決勝

1位 佐貫 有紗(1) 12"59(-0.1)

スタートがうまくはまり、スムーズに加速していた。50m手前でトップに立ち、後半も大きなストライドで逃げ切り、1着でフィニッシュ。

2位 佐々木 千肅(2) 12"73(-0.1)

スタートは予選と同様であったが、中盤は予選よりもリラックスし、加速することができた。後半は3レーン(佐貫)の追い上げにより抜かれ2位でゴール。

男子 200m 予選

1-7 1着 宮崎 幸辰(4) 21"38(+1.0)Q NGR

コーナーを曲がり終えた時点で先頭に立った。その後もスピードを維持し、流して首位通過をした。

2-4 5着 白鳥 海知(2) 22"76(+2.0)

スタートの反応は良かったが、立ち上がりが早く加速で離された。直線に入ってからにはノビが見られた。中盤から後半は良い走りができているので、前半の加速とラスト後傾する癖を直すことに改善の余地が見られる。

3-2 4着 阿部 耕大(4) 22"39(+0.8)

前半100mのカーブまでは安定感があり、スピードにうまく乗ることができた。カーブを終え、直線に入ったところ3位であったが、130m地点から若干減速し、そこから走りが噛み合わなくなってきた。決してタイムは悪くないものの予選4位であった。

男子 200m 決勝

1位 宮崎 幸辰(4) 20"91(+1.4) NGR

5本目ということもあり、動きが少し鈍っているようだったが、コーナーからどんどん加速し、最後の10mはスピードが落ちたが20秒台で優勝した。

男子 400m 予選

1-8 5着 佐藤 弘隆(4) 51"23

8レーンから勢い良くスタート。前半は早いピッチでバックストレートをリズム良く走る。250m付近でピッチが落ち始め内側の選手に抜かれてしまう。ホームストレートに入りスピードを上げるが前の選手には追いつかず、5番手でゴール。

2-2 4着 水戸部 慶彦(3)50"27

シーズン集大成となるはずの七大戦であったが、今シーズンは自己のスタイルを見つめるのに苦しみ、結局走りも安定せず、予選落ちした。

1つ内側レーンの47秒の選手を意識しすぎ、前半からオーバーペースで入ってしまったことが最大の敗因。弱点である200～300の動きが非常に悪く、最後の伸びにもつながらなかった。

秋シーズンはスタートから200までをいかにリラックスしたまま速く通過できるか、200～300で動きを変えずにスピードを維持できるかを念頭において、250mや300mのテンポ走などを繰り返し行っていきたい。

3-4 5着 矢川 省吾(3) 51"67

前半 100m は勢いのある走りができしたが、150m 過ぎで大きく減速してしまった。その間に他大との距離も広がり苦しいレース展開。ラスト 100m はフォームが噛み合わなくなりながらも減速を抑え、1人抜き去り5位。

女子 400m 予選

1-7 1着 佐貫 有紗(1) 1'00"75 Q

前半は上手くスピードに乗り、200～300m付近で他の選手を引き離していった。ホームストレートの100mは流し、余裕の持った走りでゴール。1着であった。

2-7 5着 吉村 梢(3) 1'06"72

スタートは勢いよく出たが、かなり緊張していたようで動きが固く、100mで少しずつ加速するも、ストライドが伸びなかった。

バックストレートもスピードに乗れず、力んだ走り。200m手前で内側の選手に距離を詰められた。前半でリラックスして走れなかった分、200m過ぎから疲れが見え始め失速。最後まで持ち直すことができずに組5着でゴール。予選敗退となった。

女子 400m 決勝

1位 佐貫 有紗(1) 58"12

前半は外側の選手を抜き、積極的に攻めた。ホームストレートに入った時点で2番目だったが、ラスト50mから前にじわじわ詰め寄り、ゴールギリギリで追いつき1着でフィニッシュ。



女子短距離二冠の佐貫(1)

0.07秒差の接戦であった。

男子800m 予選

1-2 5着 清野 雄太(2) 1'56"05

軽快にスタート。ハイペース気味な集団に対し、冷静に集団後方に位置取り。ホームストレートで集団中央に位置を変える。1周目は56秒で通過。500m付近からスパートをかけるが、前の選手も逃げる。自身のPBを出すものの、残念ながら5着。

2-5 3着 川口 航汰(2) 1'54"53 q

2番目につき、先頭の選手についていく。400mまでは2位。500mを通過し他大の選手と共に前へ出る。600mの通過は84秒。最後の直線で後方の選手に一人越されて3着。タイムによるプラスで決勝に進出した。

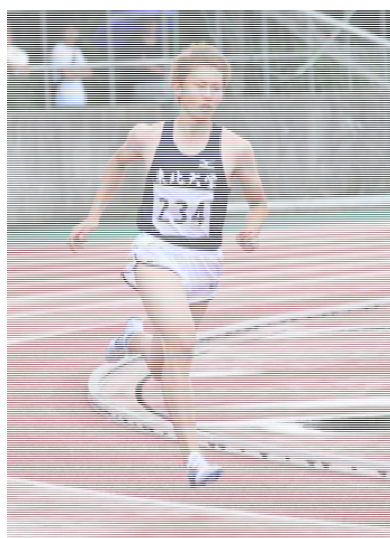
3-4 4着 佐藤 宏夢(2) 1'58"99

前の2組がハイペースだったため、この組は牽制気味。ゆっくりとしたレース展開に。集団にポケットされ窮屈そうなまま400mを59秒で通過。そのペースのまま600mまで

いく。ラストのスパート合戦で、切り替わらず。辛くも4着でフィニッシュ。

男子 800m 決勝

8位 川口 航汰(2) 1'58"66



決勝に進出した川口(2)

予選と比べ牽制気味なスタート。集団後方でレースを進める。1周目は59秒。ラスト300mで仕掛けるも周囲もスパート。予選の疲労からか、ラスト100mで失速し、8着。

女子 800m 決勝

5位 上條 麻奈(1) 2'20"06

先行する集団から離れ、4位集団に着く。落ち着いたレース運びのまま全体の5位で400mを通過、69秒。前を追い、ラストの直線でスパートもかけるも胸の差で5位。惜しくも入賞は逃したが、UBを大きく更新した。

8位 飯田 夏生(2) 2'26"50

上條と同様に4位集団に着く。冷静なレース運びで1周目を通過、70秒。500m付近で前方集団から離れるも、そこから粘りの走りを見せる。全体の8位でフィニッシュ。自身のUBを1秒ほど更新した。

男子 1500m 決勝

13位 早坂 謙児(4) 4'05"62

16位 関 俊樹(3) 4'07"41

20位 松田 将大(2) 4'19"73

全体的にハイペースな展開。松田、関の2選手は200mを30秒で通過。一方、早坂は自分のペースで集団後方からじりじりと位置を上げていく。400m通過は3人とも62秒くらいか。400-800mは全体的にやや落ち着いたレース展開に。大きな順位変動もなく、

レースが進む。800m通過は2分10秒ほど。ここでトップ集団がペースを上げる。反応したのは早坂と関。松田は苦しそうだ。早坂、関は1200mを3分15秒前後で通過。早坂が執念のスパートを見せる。ラストの300mはやや疲れたが、PBを10秒近く更新し、13着。続く関が16着、PBを更新した。松田は序盤のハイペースが影響したか、悔しい結果に終わった。

女子 3000m 決勝

10位 梶山 あずさ(5) 11'10"18

12位 飯田 夏生(2) 11'38"26

梶山も飯田もスタートから積極的に集団についていき、梶山は先頭集団の真ん中に、飯田は集団の最後尾につく。梶山は1200mまでは集団につくも離され、後続の選手と団子になりつつ前で維持しフィニッシュ。飯田は400mで離されてしまい単独走に。800mのレースから時間がなかったこともあり疲れが出たレースとなった。

男子 5000m 決勝

6位 本間 涼介(4) 15'13"59

11位 酒井 洋輔(2) 15'36"35

13位 酒井 啓一郎(3) 15'40"71

本間は10人ほどで形成される第2集団、酒井啓・酒井洋は後方からスタート。先頭集団(6人)は1000mを2'50、本間を含む第2集団は2'55、酒井啓・酒井洋は3'00で通過。3000m通過前に先頭集団が4名になり、第2集団も半分に分かれる。本間は先頭集団から落ちてきた選手を拾いつつ第2集団に付き、3000mを9'05で通過。酒井啓・酒井洋はともに第3集団を追い、3000mを9'16で通過。先頭集団は3人になり、本間は引き続き4位争いをする第2集団に付き3000m-4000mを3'09で走る。酒井洋はペースを崩さず3000m-4000mを3'10で走るが、酒井啓は3'15とペースを落とす。2人とも前を走る選手を抜き順位を上げ続ける。残り600mで本間はロングスパートを仕掛

ける。北大酒井、京大高石がこれに食らいつき、本間の前に出る。酒井啓・酒井洋も最後まで前を追う走りを見せる。強い日差しが照り付ける中、本間 15'13、酒井洋 15'36、酒井啓 15'40 でフィニッシュ。



5000m6位に入賞した本間(4・中央)

男子 110mH 予選

1-6 1着 工藤 翼(3) 14"98(0.8) Q

スタートからうまく飛び出し勢いのあるアプローチで他の選手に先行した。中盤はインターバルのリズムが少し崩れたが、最後は14秒台でまとめ危なげなく予選を1着で通過し決勝へと駒を進めた。

2-3 7着 楠木 啓介(3) 16"32(+1.2)

スタートで出遅れ、前半は苦しい展開。後半差を詰めようとしたが、思ったほど縮まらずそのままゴール。今後の課題はスタートから3台目あたりまでであろう。

3-4 4着 勝井 友樹(2) 15"85(+0.9)

スタートから3、4台目までスムーズに加速していく。後半にかけて若干の減速が見られ10台目のハードリングはやや乱れる。アプローチまでの加速、突っ込み、後半失速しないスタミナ等課題は多々あるだろう。

男子 110mH 決勝

5位 工藤 翼(3) 15"12(+0.5)

予選同様スタートとアプローチで他の選手にリードを取るも4台目のハードリングが浮いてからは走りが乱れ失速。後半は後続にさされ5着。得点は得たものの課題の残るレースとなった。

男子 400mH 予選

1-5 5着 楠木 啓介(3) 1'03"33

前半からあまりスピードが乗らなかった。中盤以降も足が合わず、大幅にタイムロス。5着でゴール。

2-5 5着 小幡 卓哉(4) 56"94

スタートからの加速は良く1台目をハイスピードで通過。前半はやや刻み気味に15歩で走り5台目までトップとの差は殆どなかった。6台目あたりからピッチの低下が見られ少し遅れたが、7台目も15歩で通過。続く8台目もオーバーストライド気味で15歩で通過と思われたが、直前で刻み16歩。踏切直前の歩数変更と、逆足踏切の着地でバランスを崩し大幅に減速。9台目も直前で歩数を増やし18歩となり、ここでも減速。再び加速することはできず、ずるずると順位を下げながらのゴールとなった。

2-3 6着 沼田 亮介(2) 1'00"62

まずまずのスタートを切ったがバックストレートに入ってから全体的に遅れが見え始め、5台目を跳び終わった頃には完全に後方で走る形となった。後半切り替えて追い上げようとするも前半の向かい風での体力の消耗のせいか追い上げが効かず、そのままの順位でレースを終えた。

男子 3000mSC 決勝

7位 南雲 信之介(5) 9'39"33

13位 熊谷 駿(4) 9'57"04

17位 田中 翔悟(4) 10'06"89

400mまではやや長い集団。南雲と田中は8番手あたりで一緒に、熊谷は集団後方で走る。南雲と田中の1000m通過は3'05"で7番手あたり。熊谷はその後方。2000mからレースが動く。南雲が7番手に上がり通過タイムは3'15"。田中は9番手に。南雲はまだ体が動いているようだが、田中はずるずる落ちる。熊谷は安定して走り、落ちてきた田中をかわす。入賞には届かなかったが南雲と熊谷は自己記録を更新する好走を見せた。

男子 5000mW 決勝

8位 及川 一真(2) 24'10"00

10位 森 渉(3) 24'52"42

及川はスタートから4番手につく。しかし、同時に行われたオープンの選手との位置取りに苦勞し、自分のペースを掴めなくなる。2000mを過ぎで失速。巻き返すこともできず東大、北大、阪大に抜かれ8番でゴール。

森は1200mまで8位だったが、オーバーペースだったため2000m辺りから大きく失速。11番目で4000mから何とかペースを取り戻し10番に上がりゴール。25分を切る自己ベストを更新した。

男子 4×100mR 決勝

2位 41"44 部記録

大衡(3)-藤井(3)-阿部(4)-宮崎(4)

一走の大衡は軽快な走り出しを見せ、カーブを上手に加速。大きな減速も見られず、バトンパスもスムーズに行うことができた。

二走の藤井は100mでシーズンベストを出し、その調子がリレーでも見られた。バトンを受け取るとエースがひしめく区間で役割を果たし3位くらいでバトンパス。

バトンを受けた三走の阿部は持ち味の安定かつ軽快で勢いのある走りで順位を落とすことなくエース宮崎にバトンパス。

四走の宮崎は東北 No.1 のスプリンターを象徴するかのごとく、あっと言う間に2位まで順位を上げる。阪大まであと少しであった。部記録を更新した、見ごたえがありチームを湧かせたレースであった。



阿部(4)から宮崎(4)へのバトンパス

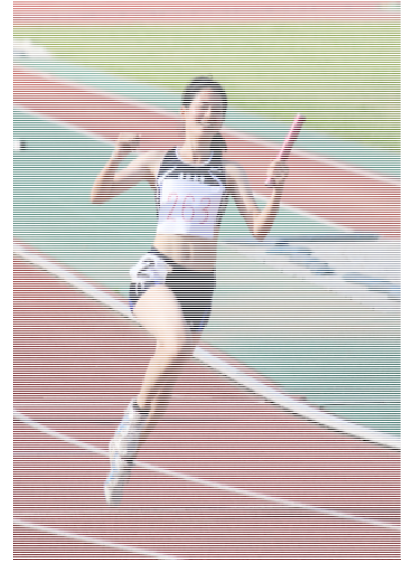
女子 4×100mR 決勝

1位 49"06 NGR 部記録

渡邊(4)-佐貫(1)-吉村(3)-佐々木(2)

一走の渡邊は他大に引けを取らず、安定感のある走りを見せた。

二走の佐貫はバトンを受け取ると圧倒的なスピードで一気に1位まで順位を上げた。流れは一気に東北大



1着でゴールする佐々木(2)

に傾く。三走の吉村は得意のカーブを安定感のある走りで他大に距離を詰められることなく四走にしっかりバトンパスを成功させる。

四走の佐々木はこの夏でついたスピードを遺憾なく発揮し、1位争いを制し、部記録をコンマ8秒ほど更新する記録を打ち立てた。

男子 4×400mR 決勝

5位 3'19"19

佐藤弘(4)-阿部(4)-小幡(4)-水戸部(3)

一走の佐藤は、軽快な走り出しをするも、後半伸びてこなかった。ラスト100mで大きな減速はなかったが苦しい展開となった。

二走の阿部は一走で奪われた差を縮めるべく、前半から他大を追い上げ、彼持ち味の安定感のあるレースを見せた。

三走の小幡も前半から積極的なレース。200m時点で5位から3位に順位を上げるも後半疲れ、再び5位まで順位を落とした。

四走の水戸部は前との距離が開いた状態で、苦しいレース展開。積極的にスピードを上げるもやはり差が大きく追い越すまでに至らず、5位という結果で終わった。

☆フィールド

男子 走高跳 決勝

2位 山下 一也(2) 2m00

足合わせ、練習試技の後に強い雨が降り出し調整が難しい状況であったが、190cmは助走も合い一回で余裕を持ってクリア。195cmは、一回目は助走のリズムが崩れて失敗。二回目はリズムを取り戻しクリア。200cmも助走を上手く走ることができ、一回でクリア。203cmは助走が再度崩れてしまい踏切もはまらず、納得のいく跳躍ができないまま三回失敗して試合終了。今回は、課題であった腰と尻のピークが合わない、という点を改善でき、成功試技は総じてピークの合った良い跳躍ができたと言える。



バーを跳び越える山下(2)

5位 田中 祥平(3) 1m90

以前から痛めていた足首靭帯の故障をかばいながらの試合となった。確実に跳べる185cmから試技を始めたが足首を無意識に庇おうとして内傾が出来ず、ぎりぎりでも成功。続いて190cmの1回目を失敗。2回目は足首の痛みを我慢して、内傾を深くしてブロックして跳び、この日一番良い跳躍が出来た。しかし、本来よりも内傾はまだ浅く、高さはぎりぎりであった。195cmは2回失敗して3回目は棄権した。結果は5位と、悔しさが残る試合となった。

6位 藤井 佳祐(3) 1m85

100m予選の後であったが助走練習ではいつもより体が動くのか詰まっていた。いつもより歩幅を下げて挑んだ。しかし途中で

大雨に降られ、体が少し冷えてしまった。185では雨が上がり、しっかり体を動かし1本目で跳んだ、跳ばなければという意志が強く助走速度を抑えてしまい膝を痛めた。6位が確定したので190以降は棄権した。

女子 走高跳 決勝

2位 中村 真璃子(2) 1m55

練習の調子が良かったのと足の調子を見て140からのスタート。140、145、150は1回でクリア。踏切だけで跳んでいる感覚だった。155は2本目でクリア。助走と内傾を意識したことでクリア出来た。158は3本とも失敗。3本目の助走で足がつり、助走をやり直した。部記録タイであったので、次回こそは部記録を更新し、もっと記録をあげていきたい。

4位 渡邊 朝美(4) 1m45

1m35から45まで1本目で成功。50は高さを意識してか助走が少し変わってしまい合わせるのに苦労する。3本目はまとまったものの、バーを落とし終了。あと一步の結果であった。

男子 棒高跳 決勝

2位 高橋 拓実(4) 4m70

4m60からの挑戦。余裕をもって1回目でクリア。バーは4m70へ。1、2回目は勢いのない跳躍となり失敗。追い込まれた3回目、上手く合わせてクリア。バーは4m80に上がるが、力のない跳躍が続き失敗。連覇はなかったが、怪我をしているなかで対校得点は確保した。



バーを跳び越える高橋拓(4)

6位 高橋 昇之(2) 4m40

4m40から試技を開始したがうまくリズムをつかめず2本失敗。続く3本目、なんとかクリア。バーを4m60にあげたが天候にも恵まれず、3本失敗。今シーズン4m70は跳んでいたものの30cmマイナスの4m40で6位。悔しい結果となった。

男子 走幅跳 決勝

11位 今泉 裕真(2) 6m81(+1.5)

かなり暑い中での試合。1本目に6m81を跳び、体は動いていると思ったが、その後の2本はいずれも6m中盤と伸びなかった。暑さに加え、直前の怪我による調整不足も原因と思われる。七大の幅のレベルがかなり上がっており、自分にあった跳躍の形を見つける練習が必要である。

14位 大塚 祐貴(3) 6m65(+1.6)

コンディションも良く、体も良く動いた。1本目はファールだったが、良い感覚であった。2本目も数センチファール。後がなくなった3本目で、プレッシャーのために、思い切りがない跳躍となった。3本目の納得いかない跳躍でPBであったが、2本目の跳躍で7m近く跳べており、悔しい試合であった。

17位 平川 祐太(2) 6m46(+2.6)

1本目は踏み切りがはまり、ベストを上回る跳躍であったが、わずかにファール。2本目は記録を残しにいった。低い跳躍だが強い追い風のおかげでベストを上回る記録となった。3本目は記録を狙いに行ったが、踏み切りが潰れ、伸ばすことが出来なかった。

女子 走幅跳 決勝

5位 渡邊 朝美(4) 5m22(+1.4)

砲丸投げと被っての競技開始。1本目に助走をうまくまとめ、5m20を残す。2本目以降も割と安定していたが、記録は伸ばせず4位でエイトへ。5本目に1人に抜かれる。5、6本目はいい流れであったが、ファールで無念の5位。大学ベストではあるが、安定感の無さが負けにつながった。



跳躍する渡邊(4)

11位 門脇 郁(1) 4m61(+1.5)

1本目ファール。スタート位置が近い缘故、踏み切り時に下を見てしまう。2本目4m61。1本目よりスタート位置を15cm下げた。しかし、ファールを恐れ歩幅が狭くなっている。3本目ファール。2本目と同じ位置から助走を始める。歩幅が広くなり最後の4歩がつまっている。東北インカレと比べ走力はいったものの助走にばらつきがある。今後安定した助走になるよう修正が必要である。

男子 三段跳 決勝

11位 須藤 海(4) 14m07(-0.4)

試合開始が大幅に遅れ、暑さ対策不足により熱中症になった模様。実力が発揮できず3本にて競技終了。

佐藤 文哉(4) NM

最後の七大戦で大いに意気込んでいた。一本目は助走がうまくはまり、13m中盤に見えたが、僅かにファール。二本目、三本目も、助走スピードを活かした跳躍ができていたが、いずれもファールであった。年々記録水準が上がる中、自己ベストは13m前半と、決勝ラインから程遠かったため、一か八かの勝負に出たが、失敗。「最後の跳躍で、手拍子に応じて下さった皆さんに感謝申し上げます。」とのことであった

藤井 佳祐(3) NM

男子 砲丸投 決勝

1位 楠 哲也(2) 12m77



投擲種目二冠の楠(2)

1投目は、それなりに突き出せたものの、足が出てファール。2、3投目は肘のけがが気になって弱気な投擲となり、10m台。この時点で8位でギリギリ決勝に残れた。4投目からは

8位 大塚 一途(2) 10m81

覚悟を決めて力いっぱい投げるようにした。4投目で11m後半を出し3位に浮上。5投目は手から砲丸が外れてしまいショート。6投目は5投目の反省を生かして投げ、PBである12m77cmを投げ優勝した。本人は6投目に関しては11m台だと思っていた。

非常に気温が高く、体がよく動く状態での試合となった。1投目は、想像以上に体が動いてしまい、足止めに足がかかりファールとなる。その後、2投目では10m台後半の記録を出し、決勝を決める。しかし、3、4投目は左手を上手く使えておらず、腰の回転で無理やり持っていく投げになってしまったために記録は伸びず。続く5投目では焦りからリバースを大きくしすぎてしまい、右足の親指の付け根を痛めてしまう。これによって最後の投げにも力が乗らず、結果は8位であった。体全体の使い方に難が見られたため、今後の改善に期待したい。

13位 佐藤 雄也(4) 9m74

1投目はグライドと突き出しともに勢いがなく、9m半という立ち投げで出せるよう

な記録であった。2投目以降は、最後の突き出しの勢いと、グライドを速く行う上での留意点を気にしながら臨んだが、結果的にグライドが普段の速さでできず動きがほとんど加速されなかったために、記録は全く伸びず9m74で試合を終える。10mすら超えなかったことは悔しいが、それ以上に自身の長所である高速グライドができなかったことが悔やまれる。今後は、フォーム全体の修正とともに、グライドを速くするために安定した方法を模索していきたい。

な記録であった。2投目以降は、最後の突き出しの勢いと、グライドを速く行う上での留意点を気にしながら臨んだが、結果的にグライドが普段の速さでできず動きがほとんど加速されなかったために、記録は全く伸びず9m74で試合を終える。10mすら超えなかったことは悔しいが、それ以上に自身の長所である高速グライドができなかったことが悔やまれる。今後は、フォーム全体の修正とともに、グライドを速くするために安定した方法を模索していきたい。

女子 砲丸投 決勝

5位 渡邊 朝美(4) 9m67

1本目に9m67を残し、良いスタートを切る。その後も同じくらいの記録でエイトに進む。後半3本は走幅跳と競技が被ったこともあり、なかなか記録を伸ばせず、気合を入れた6投目、距離は10mに乗るも無情にも右にそれファールとなる。これが残っていればそこそこの得点だったため、悔しい結果であった。

8位 青木 千景(4) 8m39

調子は悪くなく動き自体は良い方だったが、1投目から8m前半からのスタートとなってしまった。1投目は、腰が引けているうえ、グライドの流れを生かせていない投げになった。2、3投目は、多少動きが修正されたものの、記録はあまり伸びず、8m前半にとどまった。4投目以降は、上半身の突き出しと下半身のグライドの動きがかみ合わず、8m39で8位という結果となった。

男子 円盤投 決勝

1位 楠 哲也(2) 39m58

肘が痛んでいたため1投目だけを投げて、あとは棄権した。肘が痛くとも、投げ続けた彼の勇姿に拍手を送りたい。

16位 工藤 航平(4) 26m35

1投目に小さくまとまった投げをしてしまったことから、その後は体を大きく使った投げを意識するも記録を伸ばせなかった。

ターンは以前より安定感が出てきたので、記録を伸ばせるよう努力していきたい。

17位 佐藤 雄也(4) 24m00

1投目はターン中に腕の位置が少し下がってしまったため、円盤の角度が低く24m00と低い記録となった。ターンをすると身体がサークルの左側へ寄っていたため、2投目以降はファーストターンからの左足の設置位置を修正したが、2投目は左足がサークルの少し外側へ出てしまいファール。3投目は、ターン中に上半身と下半身の動きが崩れて体に軸がなくなり、右腕が上体の動きよりも遅れてしまったために円盤が右に反れてファールとなった。投擲PCとして最後であり覚悟を決めて挑んだが、結果に結び付かず非常に悔しい結末となった。

男子 ハンマー投 決勝

6位 野尻 英志(2) 36m03

調整不足が心配されて挑んだ七大戦。申請記録からは5、6位と僅差で4位の記録だった。1投目は2回転で34mを記録し、6投をある程度確実にしてから2投目以降3回転で挑んだ。しかし、評定グラウンド改修工事に伴う調整不足のためか、3回転が安定せず、記録を伸ばせなかった。重心の位置や回転の速度の変化、ターンのタイミングなどがかみ合っておらず、安定したフォームをもう一度確立することが必要である。5位が41mと例年よりも非常にレベルの高い試合で、ベストを出しても順位は変わらないが、来年は上位と張り合うために、さらなる成長が必要である。

男子 やり投 決勝

4位 楠 哲也(2) 56m27

1投目から6投目まで同じように投げ、同じような記録であった。右肘が痛む中であっても、今シーズン投げられていなかった55mを超えられただけ良しとしたい。

8位 工藤 航平(4) 50m77

競技開始直前に雨が降り始め、難しいコンディションの中での試合となった。1、2投目でやりが真っ直ぐ飛ばなかった。3投目は、方向だけを意識した結果、縮こまった投げになったが何とか記録を伸ばしベスト8に残った。その後、得点圏内へと順位を上げようとするも、記録を伸ばせず8位のままであった。3投目が自分の思った以上に飛んだことや投げ込み不足がわかった点では収穫を得られた試合であった。

12位 新出 悠介(1) 40m76

東北インカレの1週間前に負った肘の怪我を抱えながらの出場。肘にテーピングをしたりして可能な限り良い投擲ができるよう努めたが、結果は良くなかった。目標は最低でも45m、希望は50mだったが、記録は40m76であった。1投目は40m76であったが、肘をかばう投げになり、下半身と上半身の動きがバラバラであった。2投目はファール。手からやりが滑り、かつ1投目と同様下半身と上半身の動きがバラバラ。3投目は約30m。肘が限界に近かったため、腕を振り切ることができていなかった。今回は肘の怪我が諸々の原因になったため、まずは怪我を治し、怪我をしない身体づくりとフォームを追及していこうと思う。



一年間、部を支え続けた四年生たち

◎応援に来てくださった先輩方(敬称略)

宮崎鉄男、小林裕満、藤田文夫、及川拓郎、稲見文雄、尾本俊、金尾義則、佐藤健二、柴田清、光安清志、渡辺実、佐藤源之、大岩章夫、園盛之介、遠藤久則、古澤元一、眞山隆徳、槇山正春、武内信二、渡邊朝生、加藤美治、村橋光臣、白井健一、服部真徳、遠藤康彦、橋本伸二、三浦得雄、渡辺裕生、岩松正記、木場今日子、彦坂幸毅、宮野知生、古澤賢一郎、中村大、伊藤繁和、川野真寛、南指原剛志、和泉俊介、菅原靖宏、武康彦、深作昌士、川向智之、吉田真人、水野浩靖、加藤文紀、金辰也、千葉雄司、星野睦、吉沢協平、佐々木貴志、山口能史、石原武雄、大石卓司、斎藤健太、植木洋輔、諸白家奈子、渡辺美和、畑山峻、青柳光裕、川口亮平、小林和也、中島大、長谷川翔平、八木洋光、相澤直人、加藤聡、斎藤純、島田健作、田中裕志、島田瑞希、藤澤鐘吾、柴田拓哉、中野一誠、今泉卓真、柳沢真理、新田和樹、一ノ倉聖、岩崎辰哉、千葉絵里子、早坂達也、蟻坂まなみ、赤平和紀、荒木佳那子、工藤佑馬、高林祐輔、青木歩、伊藤亮輔、及川まりや、大野良輔、尾形翔平、菅野均、石代剛之、小高真依、渋谷知暉、田桑陽子、田附遼太、辻川優佑、長谷川遼平、八木まどか、藤井翼、柳澤邦彦、岡崎和貴、奥裕之、金子修平、菊地のぞみ、佐藤基明、下島千歩、田中悠貴、田辺明、角川拓也、中山なつみ、藤澤萌人、宝田拓馬、星麻沙美、増村巧、三上和樹、南共哉、向出周太、村田晃太郎、山崎大志、山根由経、石川遼、岡部大輝、近藤一樹、酒井利晃、鈴木絢子、本間大輔、山田健太郎、朝比奈祐弥、井出桃愛、大野慎也、梶山あずさ、榊原真璃子、佐々木優人、佐藤洋介、塩谷美菜子、進藤克哉、高橋慧伍、竹原大、吉田早智子

今年も多くOB・OGの方々が応援に来て下さいました。全員のお名前を把握しきれず、お名前を掲載出来なかった方がいらっしゃいましたら申し訳ありません。また、応援だけでなくたくさんのOB・OGの方が差し入れなどをしてくださり、多くの部員が助けられました。二日間、本当にありがとうございました。

◎東北総体、宮城県陸上競技権選手権大会ほか

七大戦を迎える前にも東北総体や各都道府県の国体予選で各部員が活躍しております。なお、東北総体では宮崎(4)が男子100mで10"46の部記録を樹立しました。各大会で入賞した選手を紹介します。

・第67回東北地区大学総体陸上(7/16~17) …ND ソフトスタジアム(山形)…

種目	氏名(学年)	順位	記録
男子 100m	宮崎 幸辰(4)	1位	10"46(+0.7) 部記録!
男子 200m	宮崎 幸辰(4)	1位	21"18(-0.7)
男子 5000m	酒井 洋輔(2)	4位	15'21"25
男子 10000m	南雲 信之介(5)	5位	33'36"68
男子 400mH	小幡 卓哉(4)	8位	58"12
男子 3000mSC	田中 翔悟(4)	3位	9'39"94
〃	堀 拓磨(1)	6位	9'57"37
〃	熊谷 駿(4)	8位	10'11"98
男子 4×100m	白鳥(2)-藤井(3)-大衡(3)-宮崎(4)	2位	41"60
男子 4×400m	佐藤弘(4)-小幡(4)-矢川(3)-水戸	7位	3'20"90

	部(3)		
男子棒高跳	高橋 昇之(2)	3位	4m40
男子走幅跳	大塚 祐貴(3)	7位	6m52(-0.2)
女子200m	佐貫 有紗(1)	6位	25"94(+0.3)
女子400m	佐貫 有紗(1)	5位	59"65
女子4×100m	渡邊(4)-佐貫(1)-吉村(3)-佐々木(2)	6位	49"89
女子三段跳	渡邊 朝美(4)	5位	10m61(+0.7)

・宮城県選手権(7/12~13) …ひとめぼれスタジアム…

種目	氏名(学年)	順位	記録
男子800m	川口 航汰(2)	6位	1'58"24
男子5000m	高橋 佳希(M1)	4位	15'03"36
男子110mH	工藤 翼(3)	3位	15"41(-0.8)
男子110mH	本間 大輔(M2)	5位	15"52(-0.8)
男子3000mSC	高橋 仙一(4)	4位	10'19"94
男子4×400mR	佐藤弘(4)-阿部(4) -小幡(4)-水戸部(3)	3位	3'19"75
男子走高跳	山下 一也(2)	6位	1m89
男子三段跳	藤井 佳祐(3)	3位	14m05(+0.4)
男子円盤投	楠 哲也(2)	4位	39m43
女子三段跳	渡邊 朝美(4)	5位	10m71(+0.4)
女子5000mW	白井 花(2)	3位	27'13"29

・岩手県選手権(6/23~25) …北上総合運動公園陸上競技場…

種目	氏名(学年)	順位	記録
男子100m	宮崎 幸辰(4)	1位	10"60(+1.5、GR)
男子200m	宮崎 幸辰(4)	1位	21"31(+0.1)

・山形県選手権(7/9~10) …NDソフトスタジアム(山形)…

種目	氏名(学年)	順位	記録
男子10000m	本間 涼介(4)	7位	31'19"79
男子砲丸投	大塚 一途(2)	5位	10m76

◎自己記録更新者一覧

- ・男子100m
宮崎幸辰(4) 10"46(+0.7)(東北総体)
白鳥海知(2) 11"31(+0.9)(東日本医科)
- ・女子100m
佐貫有紗(1) 12"59(-0.1)(七大戦)
佐々木千肅(2) 12"73(-0.1)(七大戦)
- ・男子200m
白鳥海知(2) 22"76(+2.0)(七大戦)
津嶋優希(3) 23"07(+0.4)(東北総体)
- ・男子400m
工藤翼(3) 51"36(仙台大記録会)
渡邊俊(3) 52"50(七大戦)
- ・男子800m
川口航汰(2) 1'54"53(七大戦)
清野雄太(2) 1'56"05(七大戦)
- ・男子1500m
早坂謙児(4) 4'05"62(七大戦)
関俊樹(3) 4'07"41(七大戦)
渡邊俊(3) 4'14"40(北日本インカレ)
- ・男子5000m
酒井啓一郎(3) 15'38"24(北大戦)
- ・男子10000m
酒井啓一郎(3) 32'25"75(北日本インカレ)
- ・女子1500m
阿部春花(2) 5'19"57
(長距離フィールド記録会)
- ・女子3000m
阿部春花(2) 11'43"86(北大戦)
- ・女子5000m
梶山あずさ(5) 18'46"11(日体大記録会)
- ・男子110mH
勝井友樹(2) 15"85(+0.9)(七大戦)
- ・男子3000mSC
熊谷駿(4) 9'57"04(七大戦)
- ・男子5000mW
森渉(3) 24'52"42(七大戦)
- ・女子走高跳
中村真璃子(2) 1m55(北日本医科)
- ・男子三段跳
佐藤文哉(4) 13m04(+1.1)(日体大記録会)
- ・女子走幅跳
門脇郁(1) 4m61(+1.5)(七大戦)

◎今後の予定

- ・9月2~4日 全日本インカレ …熊谷スポーツ文化公園陸上競技場(埼玉)
- ・9月12日 全日・全女駅伝東北地区予選会…ひとめぼれスタジアム(利府)
- ・9月19~21日 国公立26大学対校戦 …Shonan BMW スタジアム平塚(神奈川)
- ・10月1日 OB・OG戦 …評定河原グラウンド
- ・10月10日 出雲全日本大学選抜駅伝競走…出雲市(島根)
- ・10月21~23日 東北学生陸上競技選手権大会…仙台市陸上競技場(宮城)

◎編集後記

七大戦が終わりました。大会前にたてた総合優勝の目標には及びませんでした。4年生は最後の七大戦となりましたが、彼らの七大戦にかける思いは競技を通して3年生以下の部員たちにしっかりと伝わったように感じます。夏が終われば、国公立26大戦や全日本大学駅伝などの大きな大会が待ち受ける秋シーズンになります。主将・渡邊俊、女子主将・吉村梢のもと、新たな体制で戦っていく東北大選手たちの活躍にご期待ください。

文責 副務 吾妻祐介

東北大学陸上競技部三秀会
〒980-0815 仙台市青葉区花壇2-1
東北大学評定河原グラウンド内
hukumu_tohoku_ob2sin@yahoo.co.jp